特集 小児胸郭内腫瘍性疾患の画像診断

Diagnostic Imaging of Intrathoracic Masses in Children

特集を企画するにあたって

高瀬真人
日本医科大学付属多摩永山病院　小児科

Masato Takase
Department of Pediatrics, Nippon Medical School

胸部単純X線写真は小児の日常診療において最も頻繁に行われる検査の一つであるが，肺野や縦隔に腫瘤陰影を認めることは決してまれではない．気管支・肺原発の腫瘍は小児ではまれであるが，Wilms腫瘍，骨肉腫，Ewing肉腫などの肺転移はしばしばみられる．また，縦隔に原発する腫瘍は小児期に比較的多くみられ，しかも極めて多種多様である．胸部単純X線写真の読影上，縦隔陰影や横隔膜に重なる腫瘤陰影などを見逃さないことは，放射線科医のみならず全ての小児科医にとって不可欠な基本的診断技術である．しかし，正常に認められる胸腺肥大なども時に腫瘍と紛らわしい場合がある．また，円形肺炎，結核腫など炎症性の腫瘤，気管支原性嚢胞，肺分画症などの先天異常，アカラシア，食道裂口ヘルニアなどの食道拡張像，動脈瘤，肺動静脈奇形などの血管性病変といった多彩な病変を鑑別するには，それなりの経験と知識が必要である．こうした胸郭内腫瘤影の鑑別についての問題は，臨床上しばしば遭遇するものだが，単純写真の読影上のポイント，CT，MRI，核医学検査の適応や各種診断モダリティーにおいて疾患別にみられる特異的所見などを総合的に参照できる文献は意外と少なく，診断に苦慮する場合も多いのが現状である．そこで，本特集では第一線で活躍されておられる画像診断のスペシャリストの先生方に胸郭内腫瘍性疾患をテーマとしてup-to-dateな内容で執筆していただくことにした．胸部単純X線写真についてはベテランの小田切邦雄先生に腫瘤影読影上の留意点を具体的症例に則してまとめていただいた．鑑別診断の中心となるCTについては都立清瀬小児病院の原裕子先生にお願いし，胸郭内腫瘤影を呈する様々な疾患を鑑別対象としつつ，腫瘍性疾患を軸として豊富な画像を盛りこんで部位別に詳細に記述していただいた．MRIについては兵庫県立こども病院の金川公夫先生に比較的頻度の高い疾患を中心に，MRI画像所見の要点をまとめていただいた．また，最近の進歩が著しい核医学検査については群馬大学小児科の望月博之先生，核医学科の井上登美夫先生を中心に各種胸腔内腫瘍のシンチグラフィー，Positron emission tomography（PET）による腫瘍の検索や質的診断，肺換気血流シンチグラフィーによる間接的な胸郭内腫瘤の検索などについて幅広く御紹介いただいた．

本特集が多くの会員諸兄の日常診療においてお役に立てば幸いである．